

## 第1回公開シンポジウム 「国際火山噴火史情報研究所は何を目指すか？」

主催：福岡大学 産学官連携研究機関 国際火山噴火史情報研究所

日時：2012年6月16日（土）10：00～

場所：福岡大七隈キャンパス（18号館2階講義室）

「あいさつ・趣旨説明」10：00～

1. あいさつ：西嶋喜代人（研究推進部長）
2. 趣旨説明：奥野 充（研究所長）

「基調講演」10：40～

3. 金 奎漢（韓国・梨花女子大）：Alkali volcanic and plutonic magmatism in the Ulleungdo volcano, South Korea: Nd-Sr and He-Ar isotopic signatures of alkali volcanic rocks and felsic plutonic back arc basin rocks
4. 大木公彦（鹿児島大）：南九州の地質研究と大学博物館

（昼食・休憩）12：40～13：30

5. 中村俊夫（名古屋大・年代測定センター）：AMS<sup>14</sup>C年代測定の現状と今後の課題

「海外研究」14：10～

6. 奥野 充（福岡大・理）：アリューシャン列島、アダック島のテフラ層序
7. 小林哲夫（鹿児島大・院理工）：南九州とフィリピンのカルデラの比較研究
8. 田口幸洋（福岡大・理）：  
フィリピン共和国，ブルサン火山に伴う地熱活動（温泉）の特徴

「データベース」15：20～

9. 高橋伸弥・鶴田直之（福岡大・工）・奥村 勝（福岡大・情報処理センター）：  
噴火史データベースは「情報爆発」を起こすか？
10. 鳥井真之（熊本学園大）・西園幸久・稲倉寛仁（西日本技術開発）：  
長岡信治氏のデータベース試作紹介ー火山モノグラフ作成のステップとして

「防災およびアウトリーチ」 16 : 10～

11. 西園幸久（西日本技術開発）：噴火史研究は、防災にどう役立つか？

12. 大野希一（島原半島ジオパーク推進連絡協議会）：

島原半島ジオパークでの事例発表

13. 総合討論 16 : 50～

(18時から文系センター棟16階のスカイラウンジで懇親会を予定)